

平成 3 1 年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人多摩市文化振興財団	
施 設 名	多摩市立複合文化施設 (パルテノン多摩)	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	8,737	(千円)
公演事業	5,512	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	3,225	(千円)

1. 事業概要

(1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	パルTAMA主催 読響しんゆり名曲コンサート	4月7日〔日〕 8月28日〔水〕	管弦楽／読売日本交響楽団 指揮／広上淳一、太田 弦 ピアノ／反田恭平 ソプラノ／廣田美穂 テノール／笛田博昭	目標値	2,460
		テアトロ・ジーリオ・ショウワ		実績値	1,830
2	ミュージックサロン・シリーズ 2019-2020	4月25日〔木〕他	キアロスクーロ弦楽四重奏団 チェロ：向山 佳絵子 ピアノ：迫 昭嘉 他	目標値	880
		パルテノン多摩 小ホール		実績値	361
3	読響メンバーによる 室内楽のしらべ	10月29日〔火〕他	對馬哲男（ヴァイオリン） 外園彩香（ヴァイオリン） 富田大輔（ヴィオラ） 唐沢安岐奈（チェロ） 他	目標値	628
		関戸公民館 他		実績値	414
4	多摩ニュータウン× 演劇プロジェクト 第二弾「まちまち」	8月11日〔日〕	作・演出：瀬戸山美咲 公募出演者（多摩市民20名、 八王子市民4名、ほか1名） ファシリテーター・出演：7名	目標値	420
		パルテノン多摩 小ホール		実績値	360
5	パルテノン多摩落語会	1月24日〔金〕 2月24日〔月・祝〕	柳家花緑「文七元結」、 古今亭菊之丞「火焰太鼓」 柳家喬太郎「品川心中」 桃月庵白酒「百川」 他	目標値	146
		パルテノン多摩 小ホール		実績値	526
6	ぱるてのん おやこ寄席	7月25日〔木〕	玉川奈々福「シンデレラ」 桂かい枝「平林」 桂小文治「転失気」	目標値	257
		パルテノン多摩 小ホール		実績値	148
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	パルTAMAフェス 2019 in 多摩センター ～音楽と演劇を楽しむ2日間～	9月14日〔土〕 9月15日〔日〕	DE DE MOUSE／関取花／ ペンギンラッシュ／eill／STAMP ポップンマッシュルームチキン野郎／ マグナム☆マダム／たまてばこ／ 富山のはるか 他	目標値	16,000
		パルテノン大通り パルテノン多摩大階段		実績値	18,100
2	Poco Poco Festa 2020 ～ステージアートのおもちゃ箱～	2月9日〔日〕	怜楽舎、人形劇団パペットボックス、 タカパーチ、楠原竜也、かかし座、 劇団 EASTONES 石田武、東京楽竹団、 to R mansion、多摩市民ブラス、 つくしんぼ文庫、他	目標値	4,500
		パルテノン多摩全館 ※大ホール除く		実績値	5,264
3	パルテノン多摩 音楽家派遣事業	6月29日〔土〕他	メゾソプラノ：石田 滉 ピアノ：白川俊平 トランペット：中島めぐみ、小野寺宏貴 ホルン：堀口はるな、 トロンボーン：大場千鶴、チューバ：若林 毅 他	目標値	200
		市内コミュニティセンタ ー		実績値	216
4	オーケストラで活躍する 楽器のおはなし Part 4	8月19日〔月〕 ～8月21日〔水〕	ヴィオラ世川すみれ コントラバス薬科基輝 チューバ三木博士 進行・レクチャー：ながはら ゆうこ	目標値	180
		パルテノン多摩 リハーサル室		実績値	144
5	ミュージック・トーク ～コンサートを支える「匠」たち～	2月1日〔土〕他	杉浦勝之（ピアノ調律師） 青柳聡（舞台写真家） 猪狩光弘（ステージマネージャー）	目標値	180
		パルテノン多摩 シティーサロン		実績値	69
6	現代演劇講座	1月18日〔土〕他	長田育恵（てがみ座主宰／劇作家） 杉山 至（セノグラファー（舞台美術家）） 小泉今日子（プロデューサー／俳優／歌手） 徳永京子（演劇ジャーナリスト）	目標値	90
		パルテノン多摩 学習室、他		実績値	123
7	教育センター 演劇ワークショップ	11月11日〔月〕他	前嶋のの（演劇企画室 思考動物） 関根好香（演劇企画室 思考動物） 大竹創作／楽器演奏	目標値	50
		多摩市諏訪教育センター		実績値	45
8	親子で楽しむ 能ワークショップ	8月4日〔日〕	柏崎真由子、村岡聖美、林 美佐 （以上、シテ方金春流能楽師）	目標値	35
		パルテノン多摩 リハーサル室		実績値	17
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
要望書にもまとめた主な社会的役割や地域の特性は以下のとおり。 【社会的役割】 <ul style="list-style-type: none">・地域課題の解決に向け文化芸術の力を生かす・社会包摂の機能を持つ基盤施設となる・多様な人たちが集い、交流し、まちづくりにつなげる・「多摩ニュータウン」の中心である・持続可能なまちづくり推進に寄与していく 【地域特性】 <ul style="list-style-type: none">・多摩センター地区全体として計画的に整備された都市景観やみどり（遊歩道や公園）・高齢化進行の一方で、子育て世帯を中心に転入が多く人口増加傾向・都心への通勤から職住近接へ、多様化するライフスタイル・二つの公民館、各地区コミュニティセンターなど、市民の文化・学習活動の場の充実・開館以来の発信性のある国内外の優れた演奏芸術・舞台芸術・映画上映・野外イベント等の実施・多摩センター地区のクリエイティブキャンパス構想（文化と学びのキャンパス、図書館や企業等と連携） 以上に対して事業全体としてバランスよく組み立て、ほぼ当初の予定通りに事業を進めることができた。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。 「多摩ニュータウン×演劇プロジェクト第二弾「まちまち」 公募市民が多摩ニュータウンの地域特性や地域課題を題材に、劇作家との協働により演劇作品を創作し、地域課題の解決に向け文化芸術の力を生かせる事業となった。多様な人たちが集い交流し、人材を育成して持続可能なまちづくり寄与する事業にもなった。聴覚障害者のために、字幕サポートとアフタートークでの手話通訳。 「読響メンバーによる室内楽のしらべ」「パルテノン多摩音楽家派遣事業」 文化・学習活動の場（施設）の充実という市域の特性を活かし、職住近接やライフスタイルの多様化という街の情勢に対し、アウトリーチとして公民館やコミュニティセンターで実施、平日午後を実施した。コミュニティセンターではボランティアが実施運営を行い多様な人たちの集い・交流につながり、高齢者等が身近な施設で文化芸術の触れられる社会包摂面でも有意義な事業となった。 「パルTAMAフェス 2019 in 多摩センター ～音楽と演劇を楽しむ2日間～」「パルテノン多摩落語会」 当施設を含め多摩センター地区の都市景観を活かした野外フェスに2日間で万単位の市民が滞留し、周辺の企業・店舗・大学研究室等とも連携して多摩センター地区の活性化につながり、今後のクリエイティブキャンパス構想にもつながる事業となった。こどもも楽しめるパフォーマンスなども織り込んだプログラムで子育て世帯にも楽しんでいただくことができた。落語会は親子三世代で出かけるきっかけづくりの事業となった。 「ぱるてのん おやこ寄席」「親子で楽しむ能ワークショップ」「Poco Poco Festa 2020～ステージアートのおもちゃ箱～」 「オーケストラで活躍する楽器のおはなし Part4」 子育て世帯を中心に転入が多く人口増加傾向という街の情勢に対して有意義な事業となった。参加体験を通して知らない親子同士が集い交流する機会にもなった。 「現代演劇講座」「ミュージック・トーク～コンサートを支える「匠」たち～」 クリエイティブキャンパス構想（文化と学びのキャンパス）等につながる可能性もある事業となった。 「教育センター演劇ワークショップ」 不登校の中学生を主対象とした演劇ワークショップを通して、自己表現が積極的になるなど好評をいただき、社会包摂面で有意義な事業であった。 「パル TAMA 主催 読響しんゆり名曲コンサート」「ミュージックサロン・シリーズ 2019-2020」 開館以来優れた演奏芸術・舞台芸術ジャンルの鑑賞公演の要望が友の会会員を中心にありますが、客層の固定化・高齢化の一方で新しい客層・若年層の来場があまり増えなかった。文化的価値は高い一方で、社会的価値・経済的価値の面では、取り上げるジャンル、事業の対象、企画趣向、集客方法など、検討・見直しが必要となってきたと考える。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【新しい来場者を増やす】【満足度】

公演事業は、来場率 80%以上を目標としたが、結果は、読響名曲:66.9%、ミュージックサロン:59.4%、室内楽:67.0%、演劇プロジェクト:81.0%、落語会:92.0%、落語まつり:52.0%。演劇プロジェクトのみ、オリジナル企画で市民も参画したことから話題性もあり、新しい来場者の獲得につながった。また新しい来場者 5%以上を目標とし、結果は、読響名曲:28.7%、ミュージックサロン:14.3%、室内楽:22.2%、演劇プロジェクト:14.6%と、いずれの事業も目標達成した。読響名曲と室内楽は改修工事の関係で代替会場にて実施し(アウトリーチ)、会場周辺地区の新しい来場者の獲得につながった。

普及啓発事業は、総計 20,000 人以上の来場者数を目標とし、結果は 23,978 人(パル TAMA フェス:18,100、Poco Fes:5,264、音楽家派遣:216、楽器の話:144、ミュージックトーク:69、演劇講座:123、演劇 WS:45、能 WS:17)。新しい来場者が目標以上に獲得できた。

満足度は、「大変良かった」+「よかった」95%以上を目標とし、結果は、読響名曲:93.0%、ミュージックサロン:91.4%、室内楽:81.5%、演劇プロジェクト:87.6%。いずれも目標にわずかに届かなかったが、来場した人には概ね満足いただけただけの傾向から、企画内容と新しい来場者の獲得をより連動させることが必要と考える。

【若い世代を含め参加者を増やす】【子育て世帯の参加・交流を増やす】

22 歳以下の来場率について、公演事業では 10%以上、普及啓発事業では 30%以上を目標としたが、読響名曲:5.4%、ミュージックサロン:2.0%、室内楽:2.0%、演劇プロジェクト:14.6%、楽器の話:20.8%、ミュージックトーク:6.8%、演劇講座:7.0%、能 WS:55.0%、などといった結果だった。演劇プロジェクトは 10 代の学生を含む市民キャスト・市民スタッフが公募で参加し、目標達成した。パル TAMA フェスと Poco Fes は同時多発の大規模イベントのため参加者数を具体的に数えることはできなかったが、多くの若い世代・子育て世帯にご来場いただいた。参加対象が具体的に若い世代・子育て世帯の事業はせめて目標に近い結果だったが、一般告知して集客する公演事業は企画趣向や親子ペア券設定だけでなく集客方法など見直しが必要と考える。

【広報・発信を強化する】【チケット販促を工夫する】

各事業パブリシティ実績 3 件以上を目標としたが、結果は、演劇プロジェクト:記事 4 件、パル TAMA フェス:5 件。事業によって記事として取り上げていただけるかどうかははっきりしており、取り上げてもらいやすい企画の趣旨・趣向など、より一層の工夫が必要と考える。読響名曲は代替会場近隣の商業施設内チラシラックや公共掲示板などを開拓。ミュージックサロン出演者からの YouTube メッセージ動画を SNS 配信。友の会「アテナクラブ」については、先行販売・割引販売の他に、近隣店舗割引サービスを実施。読響名曲では共催いただいた音楽大学向けの学生割引を実施。演劇プロジェクトでは本公演のチケット販促を意図して関連映画上映(多摩ニュータウン開発記録)を追加実施し、創作過程を SNS で日常的に発信して、来場結果につながった。

【市外も含め参加者を増やす】

普及啓発事業の各事業で 40%以上を目標とし、結果は、都心の演劇ファンも含めて盛況だった演劇講座が 76.7%だった以外は、楽器の話:33.3%、ミュージックトーク:36.4%などと、目標に届かなかった。市内に止まらない圏域の中核施設として、事業企画ごとの具体的な対象エリアの確認が必要と考える。

【連携実績を増やす】

普及啓発事業全体で 20 件以上を目標と、結果は 34 件(パル TAMA フェス:22、Poco Fes:5、音楽家派遣:4、楽器の話:1、教育センター:1、能 WS:1)。特に、パル TAMA フェスでの近隣大学研究室・こだわりの商店の出店や地区連絡協議会・ケーブルテレビ局との連携や、音楽家派遣でのコミュニティセンターとの連携など、地域活性化・まちづくりの面で有意義な実績となった。

【社会包摂事業を実施する】

教育センターにて演劇ワークショップを実施し、延べ 45 人の学生が参加。不登校児とのワークショップを経て中学 3 年生が全員高校進学を自らの意志で決定し、合格を成し遂げ、社会的自立に向けての第一歩を踏み出すきっかけをつくることができた。これは「地域課題の解決」「社会包摂の基盤となる」に紐づく成果と言える。なお、財団全体としては他にも社会包摂の取り組みを行っている(市内の重度障がい者施設でのコンサートなど)。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間（開催期間）が適切でない事業は特になかった。

「多摩ニュータウン×演劇プロジェクト 第二弾「まちまち」

一線のプロの演劇業界関係者の協力も得ながらの演劇作品創作で、かかる経費に対してチケット収入などは少なく、まさに本補助金助成を受けることで可能となった事業。来場者数の結果は良好で、まちづくりを題材にした作品・まちづくりのための人材育成といった、効率性だけでは測れない社会的価値のある事業となった。

「パルTAMAフェス 2019 in 多摩センター ～音楽と演劇を楽しむ2日間～」

複数のオープンな野外会場での同時多発イベントゆえ、基本的に入場料・参加料を徴収できる事業ではなかった。万単位の人の滞留を実現する地域イベントで、効率性だけでは測れない街の活性化という社会的価値・経済的価値の面でも有意義な事業となった。

「Poco Poco Festa 2020 ～ステージアートのおもちゃ箱～」

「オーケストラで活躍する楽器のおはなし Part4」

「ミュージック・トーク～コンサートを支える「匠」たち～」

「現代演劇講座」「親子で楽しむ 能ワークショップ」

当財団では、参加体験・ワークショップの各種事業について、参加費を概ね500円程度とすることを基準に設定してきている。赤字補填を前提として継続し、本助成を受けることで参加費設定を実現できているが、今後は、他からの資金調達の努力もしながら、適正な参加費についても再考が必要と考える。

「パルテノン多摩 音楽家派遣事業」

コミュニティセンターでのコンサートに対し演奏家を手配し提供して、出演料を当財団が負担する事業である。会場によって有料の場合もあるが、その場合もコミュニティセンター収入としているため、当財団に収入はない。本補助金助成を受けることで可能となった、効率性だけでは測れない、まちづくりにとって有意義な事業となった。

「教育センター演劇ワークショップ」

市内教育センターに通所する児童・生徒の適応教室（ゆうかり教室）での演劇ワークショップのコーディネートと実施ということで、講師への謝礼等は当財団が負担する一方で、教育センターから当財団が受託料等をいただいているわけではなく、当財団に収入はない。本補助金助成を受けることで可能となった、効率性だけでは測れない、社会包摂面で有意義な事業となった。

「パル TAMA 主催 読響しんゆり名曲コンサート」「ミュージックサロン・シリーズ 2019-2020」

「読響メンバーによる 室内楽のしらべ」

入場者数は指揮者、ソリスト、出演者の知名度や、特色の明確な選曲かどうかなどに、大きく左右される結果であった。以前より高額な赤字補填を前提として継続してきたシリーズ事業だが、客層の固定化・高齢化はなかなか解消できず、若年層の聴衆育成や出演者による開催地域への還元・フリンジ企画などの視点を含め、具体的な企画の再検討が必要と考える。本助成を受けることで低廉なチケット価格を実現できたが、他からの資金調達の努力もしながら、適正なチケット価格についても再考が必要と考える。

「パルテノン多摩落語会」「ばるてのん おやこ寄席」

来場者数の実績としては好評をいただいた事業だが、制作会社に出演者調整・制作・広報物制作など委託する一方でチケット収入は少なく、効率性（採算性）の面では今後企画制作手法について再考が必要と考える。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【機能発揮のための資源活用】

当財団は従来、著名な専門家の雇用はしていないが、プロパー職員の専門性を活かし、事業ごとに専門家・業界団体・実演団体等との協力関係を資源にして事業の質と獨創性を担保してきている。読売日本交響楽団とは“多摩市の文化振興に関する事業提携”を締結しており、それを受けて読売名曲や室内楽の事業は、指揮者、ソリスト、プログラムなど良質な企画を実現した。演劇プロジェクトは、気鋭の劇作家・瀬戸山美咲氏と市民による演劇作品創作で、「多摩ニュータウン」という地域性を活かした取り組みであり、地域の特性や課題を演劇的手法によって表現した点で創造的な事業となった。パル TAMA フェスは、全国で大規模イベントの実績が豊富な制作会社との協働企画。Poco Fes は、市内の文化 NPO（認定 NPO）との協働企画。演劇講座は、著名演劇ジャーナリスト徳永京子氏による企画。他の各種ワークショップ・講座も、特別支援教室ワークショップなどの分野で評価の高い前嶋のの氏、国立能楽堂、ブリヂストン美術館など、職員が様々な方面から得てきた人的資源の蓄積を活かした事業となった。

東京都南多摩地域における鉄道キーステーションのある立地（小田急/京王/モノレール）、計画的に整備された多摩ニュータウン中心地区の都市景観（ペDESTリアンデッキ、パルテノン大通り）、その主要構成要素である当施設の個性的な建築外観（パルテノン大階段）なども他にない特徴的な資源である。また、当施設は劇場・音楽堂機能以外に博物館機能・練習室・会議室などからなる複合文化施設である。特にパル TAMA フェスや Poco Fes では、そうしたアクセスの便、都市景観、施設複合機能などを存分に活かした大規模事業となった。

多摩ニュータウン周辺に高等教育機関が多いという地域資源も活かし、TAMA フェスなどでは近隣大学の学生が実施運営に参画し協働する機会となった。

文化・学習活動施設が充実している街の特徴を活かし、音楽家派遣と室内楽の事業は二つの公民館や各地区コミュニティセンターで実施し（アウトリーチ）、地域中核劇場音楽堂の事業として有意義なものとなった。

【芸術性、普及啓発、など】

読売名曲は、いずれも若手気鋭の、ピアニスト/反田恭平氏、指揮者/太田 弦氏、ソプラノ/廣田美穂氏 テノール/笛田博昭氏と、単に芸術性の高さだけ止まらず、今後の音楽文化を支える注目の音楽家たちを紹介する機会になった。

室内楽の事業は、読響メンバーが普段のオーケストラ活動から離れて、室内楽公演を工夫を凝らしたプログラムで実施。音楽家には研鑽の機会となり、聴衆にも新しい作品に気軽に触れることができる事業となった。

演劇プロジェクトは、平成 29 年度に続く第二弾の作品初演であったが、瀬戸山氏の脚本監修・演出などに導かれて前回作品から進化し練度の高い作品となり、劇場自身の作品の蓄積にもなった。

落語会やおやこ寄席では、柳家花緑や柳家喬太郎といった著名真打の他に有望な若手噺家も織り交ぜ、芸術性の高さだけでなく噺家の人材育成や鑑賞者の普及啓発にもつながり、伝統文化継承に資する事業となった。

パル TAMA フェスや Poco Fes は、広く多摩ニュータウンを対象とし大規模な形で実施して万単位の来場者にお越しいただき、地域中核劇場音楽堂として、まさに普及啓発のための有意義な事業となった。

その他、演劇講座では一線で活躍する著名演劇関係者を招聘し、楽器の話ワークショップでも若手でありながら優秀かつ子ども向けワークショップに相応しい演奏家を選びすぐって招聘し、内容をいちから事前に協議・準備して、受講参加者への創造的的刺激を意図しつつ芸術性の質にこだわる事業となった。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

【ステークホルダー、地域ニーズ、など】

隔月発行の定期広報誌「パルテノン多摩 NEWS」の紙面に折に触れレビュー記事欄を設け、事前告知だけでなく実施した事業の様子を紹介するなどして、ステークホルダーからの共感獲得や潜在的な地域ニーズの掘り起こしに努めている。また、法的に備え置きが義務付けられる年間事業報告書とは別に、一般市民向けに写真を多用したわかりやすい「年間事業レポート」冊子を制作・無料頒布し、当財団事業への理解獲得に努めている。

「パルTAMA主催 読響しんゆり名曲コンサート」「ミュージックサロン・シリーズ 2019-2020」

読響名曲は、改修計画で大ホールが使用できないため、近隣の川崎市麻生区の昭和音楽大学キャンパス内の会場にて実施。同大学としても同じ麻生区に練習拠点を持つ国内主要オーケストラの公演誘致に関心があり、共催していただく形で実施した。他の多摩地域の芸術系大学も含め、今後・改修再開後の産学連携に発展させるきっかけづくりとなった。

なお、市内の地域ニーズとしては、読響名曲もミュージックサロンも、友の会「アテナクラブ」会員はじめリピーター・高齢者の来場が引き続き多く、新しい客層・若年層の来場は狙い通りには増えなかった。今後の実施あたっては企画内容・会場選定の両面から再考が必要と考える。

「読響メンバーによる 室内楽のしらべ」

改修休館前で小ホールは使えたが、敢えてアウトリーチとして、市内公民館にて平日日中に実施。会場近隣地区の新しい客層や当日券での来場者が多いなど、今後の事業に反映できる潜在ニーズの手応えが得られた。

「多摩ニュータウン×演劇プロジェクト 第二弾「まちまち」」

キャストもスタッフも10代の学生から高齢の方まで幅広い市民から予想以上の多数の応募があり、鑑賞来場者も盛況で、「街づくり」というテーマに対する関心の高さ、演劇という手法での取り組みに対する関心の高さを実感できた。今後まさに継続発展させていくべき事業機軸と捉える。

「パルテノン多摩落語会」「ばるてのん おやこ寄席」

子どもたちへの伝統芸能の継承も視野に入れて行った事業だが、子どもたちの来場は多くなかった。おやこ寄席は、前年度までの制作費規模を削減し「体験コーナー」をなくしたため、子どもたちにとって企画内容の魅力が乏しかったと考えられる。企画内容と費用対効果のバランスを再検討する必要があると考える。

「パルTAMAフェス 2019 in 多摩センター ～音楽と演劇を楽しむ2日間～」

「Poco Poco Festa 2020 ～ステージアートのおもちゃ箱～」

毎年多くの市民が来場し定着してきている。開放的な屋外の都市景観の中の会場で過ごす気持ち良さも相まって、市内・近所に出かけて文化芸術を気楽に楽しみたい子育て世帯などにとって、正に相応しい事業であった。なお、いずれの事業も、高額な制作費規模に対しチケット収入や参加料収入が少ない事業ゆえ、助成金獲得などの他、地域ステークホルダーからの共感・支援を獲得しながら継続発展させていく事業と考える。

「パルテノン多摩 音楽家派遣事業」

実施したコミュニティセンターからは毎回好評をいただいております、センターのボランティアの方々の張合いにもなっており、まちづくりの面から継続発展するべき事業と考える。なお、実施を要望するコミュニティセンターが固定化傾向にあるのも実際に、従来あまり実施していないセンターでの展開の検討が必要と考える。

「親子で楽しむ 能ワークショップ」

日本の伝統芸能が学校教育の中にも含まれていることもあり関心ある親子もいるが、年々やや参加者が減少してきている。ニーズもだが、地域の中核劇場音楽堂として取り組むべきジャンルであり、企画内容を工夫したり教育委員会と連携するなど、見直しを行いなが継続展開していくことが必要と考える。

「教育センター演劇ワークショップ」

教育センターで好評をいただき有意義な実施となっている他に、市内の障がい者施設福祉施設など未開拓の潜在的ニーズがあると考えられ、継続発展していくべき事業と考える。

「現代演劇講座」「ミュージック・トーク～コンサートを支える「匠」たち～」

専らジャンルのコアなファン層が、都心などからも来場。そうした層には好評の事業となったが、地域の文化芸術の発展という視点から、対象や企画内容について再考を加えながら継続するべきと考える。

「オーケストラで活躍する楽器のおはなし Part 4」

子どもたちに対する人材育成・普及啓発も視野に入れて行った事業だが、子どもたちの来場は多くなかった。楽器の種類にもよるが、学校吹奏楽部に参加したり民間音楽教室のレッスンに通うなど以外は、ニーズ・関心としては高くないかもしれず、オーケストラ公演と関連付けた企画にするなど、再考が必要と考える。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

令和2年度から予定されている大規模改修工事を機に、多摩市にて文化芸術振興の方針やパルテノン多摩の管理運営の在り方等について再検討を行っている。当財団としても、再開館後に引き続きパルテノン多摩の管理運営に従事する候補者として、今後どのような事業を展開していくべきか、「改修休館まで」「改修休館中」「再開館後」の各フェーズに区切って、市民ニーズ調査なども実施しながら検討している。

【人材】

従来当施設（当財団）には館長というポジションがなかったが、令和元年6月より館長ポジションを設け劇場音楽堂・アートマネジメントの専門家を登用し（兼財団事務局長）、本助成金申請で採択を受けた事業はもとより、年間事業全体の計画・実施の質向上につなげている。

普及育成事業を充実させることを視野に、令和元年8月より専門性の高い人材を新規採用し、令和2年度以降も新規採用を予定しており、事業展開のための体制強化を予定している。

組織目標に沿った職員各自の目標を、幹部職員と面談の上で年度当初に定め、半期ごとの目標達成度評価を実施している。また、各事業の計画時点と終了後に事業課職員全員でPDCAサイクルでの検証を行い、各職員の企画力向上に努めている。

再開館後に引き続きパルテノン多摩の管理運営に従事する候補者として、より効果的な管理運営を遂行すべく、新たな挑戦として令和元年度に民間企業との共同企業体を組み、再開館後の管理運営について検討を開始している。

【財務】

指定管理料は年々微減し、令和元年度は3億6千万円であった。大規模改修工事に先立ち、設備老朽化が激しい大ホールは平成30年年12月より使用中止にしたため、利用料金収入が大幅に減収になり、事業規模も縮小し、管理運営全体の収支規模は縮小した。令和元年事業の実績・成果なども踏まえ、事業規模・事業費・管理経費を含め全体的に精査を行い、「改修休館中」の期間を活かし、劇場法や多摩市のニーズに応じていく「改修休館中」「再開館後」の文化振興事業の予算・体制などについて引き続き多摩市と協議していく。

本補助金助成の他、地域創造の助成プログラム、民間助成等、通年で申請先をリサーチし、令和元年度は他に民間助成を1件獲得した。多摩市周辺の企業等に協賛をお願いし、17の企業・大学などから支援を受けた。大規模改修工事を控え支援数を増やすことは難しいが、再開館後に向けて中長期的な支援の輪・地域との連携の発展について検討していく。1990年代から継続してきている友の会制度は、長年続けてくるなかで嗜好ジャンルや年齢層の偏りもでてきている。将来の会員制度やチケット販促の手法を、他施設の事例をヒアリングするなどして検討していく。

【各方面とのネットワーク】

全国劇場・音楽堂等アートマネジメント研修会に事業系・管理系、複数の職員が参加。

劇場音楽堂等連絡協議会に参加。

東京多摩公立文化施設協議会に参加。

再開館後に向けて、全国の他施設、地域の大学・企業など、各方面とのネットワーク展開を検討していく。

【施設】

平成30年度に策定されたパルテノン多摩改修基本計画のなかで文化芸術振興の方針やパルテノン多摩の管理運営の在り方等も定められ、令和元年度には専門家・市民による委員会によって管理運営計画が策定された。改修では充実した事業展開が可能となる様々な機能回復・機能向上が施される予定である。当財団としては、それらの与条件を踏まえ、再開館後にどのような事業を展開していくべきかの検討につなげていく。